

		具体的目標			方策	学校としての取組や反省	評価 (案)	学校運営協議会での意見
I	1	わかりやすい授業の実践とフォローアップの徹底	①	1	実態把握の徹底と課題解決のための系統的・具体的な取組	○ 各種テストの結果の分析を実施し、正答率の低い部分について復習の時間を設けるなどして定着に努めた。 ○ 前期課程も教科担任制を実施し、教師の専門性を生かした授業を行うことで、学習内容についての理解や興味・関心を高めることができた。	3.2	・子ども達が「なぜだろう」と疑問に思ったことを「めあて」として子どもの言葉でつくるようにすると主体的な学びにつながるのではない。 ・子ども達にはそれぞれ個人の学びがあるはずなので、それぞれにどんな学びがあったのかの「まとめ」ができるとうよい。 ・主体的な学習態度と学力の定着について、保護者の満足度が落ち込んでいた。
			②	2	主体的な学習態度の育成	○ICTの積極的な利用や、木城スタンダード（木城学園における授業づくりのポイントを示してあるもの）を作成して「めあて」と「まとめ」の整合性を意識した授業改善に取り組むとともに、授業の相互参観を積極的に行うことで授業力の向上にも努めた。		
			③	3	学力の定着を図る取組の推進	○少人数指導により、特に数学の計算力など、基礎・基本の定着を図った。 ●木城スタンダードを用いた授業づくりを継続して行い、生徒が主体的に学習に取り組むような工夫や習熟を深めるための場面の工夫に取り組み、生徒の主体性を伸ばし学力を向上させたい。		
			④	4	義務教育学校のよさを生かした取組の推進	●図書館教育の推進を図り、読書に慣れ親しませる必要がある。		
	2	地域との連携による教育活動の推進	①	5	地域の力を最大限に活かし、多くの人材・素材にふれさせる取組の充実	○ 地域コーディネーターと連携し、地域人材・素材を活かした授業実践を全学年で行うことができた。 ○総合的な学習の時間でも、地域の人材を活用した取り組みを積極的に取り入れた。	3.3	・学校は子どもが学ぶ場所だが、それ以外にも学ぶ場所があってよい。今後は、学校運営協議会を通して、学びの場を外に広げるなどの工夫を行っていくとよい。 ・学校と家庭の連携があまりできていないように感じる。
			②	6	社会とつながる学校づくりの推進	○ 昨年度に引き続き、地域の方々と共同でコスモスの栽培に取り組んだ。またフジバカマの移植を行った。生涯学習のつどいと参観日を同日開催するなど地域と連携した実践を行うことができた。 ○児童生徒の個に応じた、家庭と連携した生徒指導を推進することができた。		
			③	7	家庭（保護者）との連携強化	●学校運営協議会を通して、学校と地域の役割について熟議を重ね、地域と学校が両輪となって行う教育活動のさらなる充実を図りたい。		
II	1	人間関係の醸成と人権感覚の育成	①	8	いじめは絶対に「しない、させない、許さない、見逃さない」指導の徹底	○「いじめ・不登校対策委員会」を定期的に開催し、児童生徒の変容を追跡・共通理解し、きめ細やかな生徒指導を行うことができた。 ○教職員の人権に関する研修は、毎学期実施した。次年度も事例研修を通し迅速な対応や、適時・適切な指導の在り方等研修の充実を図り、人権感覚をさらに高めていく予定である。	3.3	・児童生徒の実態把握のための教育相談やアンケートの実施について、保護者と委員の満足度が落ち込んでいた。
			②	9	人権や生命を大切にし、共生社会の実現につながる実践の推進（より深い児童生徒理解と対応）	●Q-Uテスト等のアセスメントの分析をより細かく行うとともに、各学年、各ステージ単位で児童生徒の不応を減らすような取組を行い、積極的な生徒指導を推進したい。		
			③	10	教職員の人権感覚を高め続けるための手立てや充実			
	2	あいさつの意義・理解と励行	①	11	校内における取組の充実	○ 各学級・学年、委員会活動等であいさつ運動について工夫した取組を実践できた。 ○ 朝の会・帰りの会などの常時指導において、あいさつについてふれたことで、多くの児童生徒が課題意識をもち、あいさつのよい学校を目指そうという気運が高まってきた。	3.3	・朝の登校班の中では恥ずかしさがあるのか元気がない。しかし、夕方には元気にあいさつができるので、登校時間以外にあいさつする児童生徒をほめることによって、朝のあいさつの改善につなげることができそうである。
			②	12	家庭・地域と連携した取組の推進	○ 地域の見守り隊の方々の朝の活動やPTAの交通立番指導を通して、児童生徒のあいさつの励行が図られた。 ○ 学校からの通信やホームページ等で家庭や地域にあいさつの推進について発信し、児童生徒の校内でのあいさつがよくなってきた。 ● 今後は地域の中でもあいさつができるような取組の工夫を行いたい。		
	3	児童生徒の夢実現への基礎的な資質（社会性・市民性も含む）の育成	①	13	ふるさと学習・キャリア教育の充実	○ 主題研究を通して、本校の特色ある教育活動を生かしたふるさと学習・キャリア教育の充実を図ることができた。 ○ ふるさと教育では、9年間の系統的な学びを実現するために、全学年で「核となる体験活動」を設定し、探究学習を進めることができた。今後も工夫改善を行いながら取り組む予定である。	3.1	・地域の行事の参加については、行事がある地区とない地区の差がある。 ・地域の行事には5年生以上のジュニアリーダーが参加している。一方、1～4年の子どもは参加したくても参加できない実態がある。そういった子ども達も参加できるような工夫が必要である。 ・地域の行事を学校で広報したり、周知できるとよい。
			②	14	各教科・特別活動におけるキャリア教育の視点や系統性を意識した指導・支援の充実	●地域行事への参加を賞賛しフィードバックする場を設け、児童生徒の参加率を高めていきたい。		
			③	15	児童生徒の社会性・市民性の育成			

		具体的目標		方策	学校としての取組や反省	評価 (案)	学校運営協議会での意見
III	1	児童生徒が安心して学校生活をおくる手立て及び環境の充実	①	16 児童生徒が自ら考え行動する力の育成	○ 感染症対策については各々が実践を行うことができた。 ○ 避難訓練を通して、児童生徒に「自分の命は自分で守る」という意識を高めることができた。 ● 児童生徒が自ら考えて規則正しい生活習慣を身に付けられるような取組を考えていきたい。 ● 廊下歩行について課題がある。TPOに応じた行動を自ら考え実践させる取組が必要である。	3.3	・総じて評価が高く、今年度の取組は良かったことが分かる。 ・子どもの「自分たちはよくやっている」という自己評価から、自己肯定感が高い子ども達であると考えられる。
			②	17 保健指導の充実（感染症対策など）			
			③	18 校内での児童生徒の生活に対する指導・支援の見直し			
	2	発達段階に応じた体力向上の手立ての実践	①	19 体力の現状分析と体力向上策の推進（部活動・社会体育等との連携推進）	○ 部活動指導員の協力により、社会体育等との連携を図ることができた。 ○ スポーツテストの分析を行い、本校の落ち込んでいる項目を木城っ子体操に反映させることができた。今後は体力向上に向けて、効果的な活用を図っていきたい。 ● スポーツテスト分析の結果を生かした日常的な体力向上の手立てを講じる必要がある。	3.1	・子ども達のたくましい心や体をはぐくむ（体力向上）ために、大雨や雷、体調不良を除き、少々の雨の日でも「徒歩通学」や「自転車通学」を奨励してはどうか。特に体力向上は毎日の積み重ねであり、登下校は有効な手段となり得る。
			②	20 日々身体を動かすことを楽しみながら体力向上につながるアイデア等の共通実践			
IV	1	健康第一 風通しのよい職場環境	①	21 無理をしない、無理をさせない、見逃さない体制	○ 校務のDX化を図り、業務の効率化につなげた。今後も改善していく予定である。 ○ 職員が問題を一人で抱え込まずに同僚や管理職に相談できる体制づくりができた。 ● 職員の危機管理に対する意識をさらに高めるための手立てを工夫し、共通理解を図り実践していきたい。 ● 業務改善、働き方改革にかかわる取組については今後も継続した取組が必要である。	3.1	
			②	22 オン・オフの切り替え			
			③	23 相談し合い支え合う職場づくり			
			④	24 コンプライアンスの遵守			
	2	義務教育学校のよさを生かした組織的対応	①	25 専門性を生かした取組	○ 前期課程の教科担任制と専科制の導入で、専門性を活かした学力向上に努めることができた。 ○ 前期課程と後期課程それぞれの専門性を活かした生徒理解と対応を行い、生徒指導の充実が図られた。 ● 義務教育学校の先行事例などの研修を取り入れて、職員の意識改革を図る必要がある。	3.0	・他校の先行事例を継続して研究し、よいところは積極的に取り入れ、本校のよさとする。
			②	26 学び続ける存在（師弟同行）			